

2023年3月28日

2023年 事業計画

その人らしさをつなげる
神奈川県匡済会



社会福祉法人
神奈川県匡済会



目次

1. 2023年度事業計画策定にあたって
2. KKF2030デザイン(かながわケン・キヨウサイカイ・フューチャー 2030 デザイン)改訂版
3. KKF2030デザインの進捗(本部評価)
4. 2022年中間決算振返り(事業所評価)
5. 「KKF2030デザイン」と「2022年度事業計画」関連図とさらなる重点化-(1)
6. 「KKF2030デザイン」と「2022年度事業計画」関連図とさらなる重点化-(2)
7. 2023年度本部最重要課題
8. 2023年度本部最重要課題の具体的な取り組み
9. 事業所別計画-(1) 一覧
10. 事業所別計画-(2) 事業別ポイント
11. 資金収支予算

■ 資料：事業活動資金収支 (CF) 推移表／グラフ



1. 2023年度事業計画策定にあたって

2023年3月28日

2022年も新型コロナウィルスパンデミックの影響を受け、昨年末からの第8波は2023年年明けに持ち越し、入所施設、保育所をはじめとして、全施設で緊張感を強いられる日常を余儀なくされている。漸く、5月8日には、感染症法上の5類の位置づけとなるが、気を抜けない状況は続く。

また、昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻により、自ら大儀名分を掲げる国家に翻弄され、関係国ではかけがえのない生命の危機にさらされ、燃料、食料の需給も滞って世界的なインフレを引き起こし、皮肉にも、当法人も地域社会、日本のみならず、世界とのつながりを認識する一方で、負の連鎖を被らざるを得ない社会情勢となっている。

国内においても、世界に類を見ない高齢化の進展、2025年問題(団塊世代)、2040年問題(団塊ジュニア世代)を背景とした社会保障給付費の急増。また、少子化による生産年齢人口の減少、働き手不足によるさらなる介護人材難。子育て支援策の充実含め、全世代型社会保障構築会議の答申で方向性が示されているところにある。

介護保険事業の本入所、デイサービス、ショートステイ事業はコロナによる利用控え、保育所においても出生数の低下や企業の子育て支援策が拡充され、主に0歳児保育の見合わせによる減収。さらには、法人全体でも燃料費の高騰による光熱費、人材採用費用等が収益を圧迫する現状にある(収益事業を除く事業活動資金収支、社会福祉事業計では、赤字計上の見込み)。

感染症対策の徹底による現場職員の頑張りで匡済会が関わる福祉事業を継続、維持できているが、そこにとどまらず、基本理念を柱に未来志向で2030年のあるべき姿に向かって、課題解決していく「KKF2030デザイン」が緒に就いた一年となった。

2022年度を振り返り精査し、外部環境変化を機敏に捉えて、5事業11施設が担う福祉事業の基本を研ぎ澄ませる。すなわち、地域で欠かせない存在として支持を獲得し、確固たる存在価値を確立すること。そのためには、法人の価値向上好循環サイクルを回し続けて、本年度は、KKF2030のあるべき姿の具体化をさらに、進めていく。

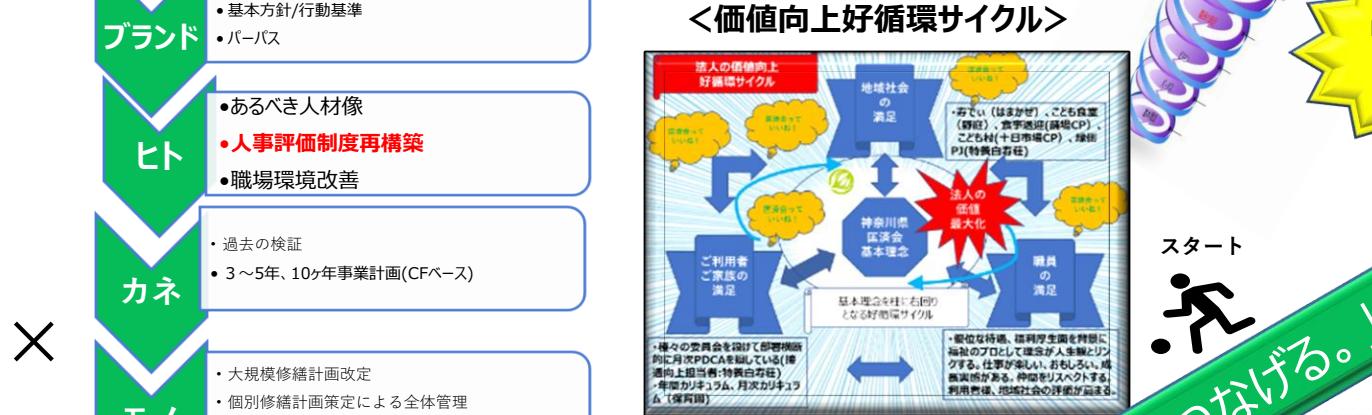
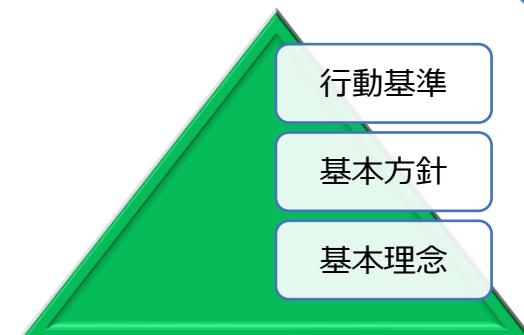
2023年度事業計画は、6つの重要課題とKKF2030リソース(経営資源)をクロスさせ、法人存続のため「ブランド」を中心に、「カネ」、「ヒト」、「システム」の大項目4つをフレームワークとして整理し、最優先で取り組む設計で立案した。



2. KKF(カナガワケン・キヨウサイカイ・フューチャー) 2030デザイン



社会福祉法人
神奈川県匡済会



匡済会のパーパス「その人らしさをつなげる。」



社会福祉法人 神奈川県匡済会

社会全体

地域社会

匡済会

少子高齢化
人口減
社会保障費増大
光熱費高騰
インフレ
人材確保難



3. KKF2030デザインの進捗(本部評価)

★印を重点化、整理していく。

「KKF2030デザイン」リソース

プラン

- ・基本理念
- ・基本方針
- ・行動基準

ヒト

- ・あるべき人材像
- 人事評価制度再構築**
- ・職場環境改善

カネ

- ・過去の検証
- ・3~5年、10ヶ年事業計画(CFベース)

モノ

- ・大規模修繕計画改定
- ・個別修繕計画策定による全体管理

システム

- ・法人内基幹システム構築
- ・勤怠/給与/人事システム導入計画

地域/ネットワーク

- ・地域との共生
- ・地域貢献
- ・新規事業探索

KKF2030デザイン リソース(経営資源)の詳細

ブランド Brand *常にブランドの魅力を発信し続ける

基本理念を柱に100年を越えて、事業展開する匡済会。先人たちは、福祉事業を通して時代の課題解決に取り組んできた。基本理念は、職員が守り続けてきた事業に対する約束。パーサスはこれからの中の未来に対して道しるべ役割を示すもの。ブランドは、無形ながら、我々の根底にある抛りどころ、最も大切にしているもの。

ヒト Person (人材) *あるべき人材像を求めて11事業所全体をデザインする

「あるべき人材像」は、福祉業界で働くという特徴(プライド)を背景に、匡済会の理念に共感し、主体的にキャリアアップし、自身の成長(自己実現)とともに匡済会のブランド価値を高める人材。・職場環境改善は不断に取り組む。
・「人事評価制度の再構築」は、ワーキングチームを立ち上げ、づくりある、・法人全体のシナジー効果、個別の組織ではなく、全体へ、・「7つの習慣」=私的成功的習慣×公的成功的習慣×最新再生の習慣、未来を考える共通言語として。

カネ Expense (財務) *安定した基盤、未来の価値を求めて

・中長期計画(10年事業計画)をまずは本部にて作成する。・特養白寿荘モデルをつくる。
・管理者層は財務管理を理解し、実行する。

モノ/Large Repair (物) *資産価値をデザインする

施設/設備を共有する、・長期運用を見据えて評価する、・時価評価を把握する
・全体感をもって監理する

システム System (働きやすさ) *働き方をデザインする

・勤務/給与/人事システムの導入、・法人全体のネットワーク統一化
・労働基準の見直し

地域/ネットワーク Area/Network (地域/協働) *地域社会の課題解決を目指して

・地域との共生、・地域貢献、・新規事業の探索

KKF2030進捗

- ・基本理念の浸透
- ・パーサスの浸透
- ・KKF2030に向けて

- ・法人組織連携の促進
- ・人材研修BANK検討
- ・人事評価制度再構築始動
- ・本部組織改革

- ・中長期計画の作成
- ・財務構造の理解
- ・事業改善構造改革の必要性

- ・BCP対策資機材整備
- ・施設大規模修繕計画

- ・諸制度、規約改正
- ・法人内ネットワーク構築
- ・各種システム管理体制

- ・新規事業探索
- ・地域交流連携

課題と方向性

★ 基本理念・パーサスを浸透させて共有共感を醸成する。KKF2030に向かって各事業におけるビジョンの明確化、法人全体のビジョンの可視化を行い、法人全体の一体感の醸成を目指す。

★ ワーキングチーム（職場代表者）を主体とした「人事評価制度再構築」を推進する。並行して本部組織改革を進め、全体感のある職場環境改善を進めていく。職員一人ひとりの役割を明確化し、あるべき人材像を醸成する。

★ 事業における安定性を確保し、未来的価値創造に向けた法人事業シミュレーションを確立する。特に介護保険事業における収支改善は急務と位置付けて事業評価を行い最適性を担保する。

★ BCP対策に則り、非常時に備えて必要物品の調達備蓄を進める。各事業所特性に応じた事業継続計画を有事の際の実行力をもつ。大規模修繕計画では所有施設を中心に中長期計画案に正しく数字の落とし込みを行い、正確性をもつ。

★ 諸制度、規約の更新を行い運営規定の共有共感を進める。法人内で個別運用が目立つシステムに関して法人基幹システムを構築する。法人内ルールの安定化を図り、ICTソリューションを実現していく。

法人地域に今までにない福祉貢献事業の探索を行い、それを生み出していく。地域コミュニティと連携した避難訓練等を実施して関係性を醸成し、さらに深める方向性を模索する。

4. 2022年中間決算振り返り(事業所評価)

＜中間ヒアリング調査＞

中間決算時にBEST(できしたこと)、WORST(できていないこと)をもとに各事業所に詳細をヒアリングした。

	I 組織風土	II 人材育成	III リスク管理	IV 地域貢献	V 財務修繕	VI 情報還流	課題認識	課題認識	予算収支	課題認識
							課題認識	課題認識	予算収支	課題認識
寿福祉センター保育所	○		×							
新山下二丁目保育所	○	×								
大倉山保育園	×			○						
横浜市踊場地域ケアプラザ			×	○						
横浜市十日市場地域ケアプラザ	×									○
横浜市緑ほのぼの荘	×			○						
横浜市生活自立支援施設はまかぜ	×		○							
救護施設横浜市浦舟園		○					×			
養護老人ホーム白寿荘	×						○			
養護老人ホーム野庭風の丘				×			○			
特別養護老人ホーム白寿荘				○			×			
ベスト○	2	1	1	4	2	1				
ワースト×	5	1	2	1	2	0				

2022年中間決算から見えた課題の整理

◎【見える化された課題】と【取組みにくい、
単一事業所では解決できない課題】

【求められている本部課題】

- 組織風土改革(見える化された課題)
 - ・事業所課題と本部組織改革
- 人材育成(事業所が取組みにくいと考えている)
 - ・人材育成に関して具体的なルール、ビジョンがない
 - ・人事評価に透明性がなく分かりづらい
- 財務修繕(収支は、運営上、最優先)
 - ・継続性担保のため収益確保
- 情報還流(単一事業所では解決できない)
 - ・システム運用に関してノウハウが少ない
 - ・費用負担が大きく着手しづらい

【本部の取組みの方向性】

- ・本部が請け負うリソースの明確化
- ・具体的な法人計画
- ・実行スケジュール

5. 「KKF2030デザイン」と「2022年度事業計画」関連図とさらなる重点化-(1)

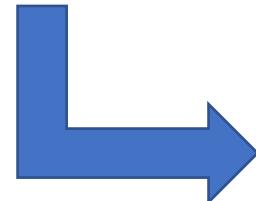


6. 「KKF2030デザイン」と「2022年度事業計画」関連図とさらなる重点化-(2)

「KKF2030デザイン」リソースと2022年度事業計画との関連

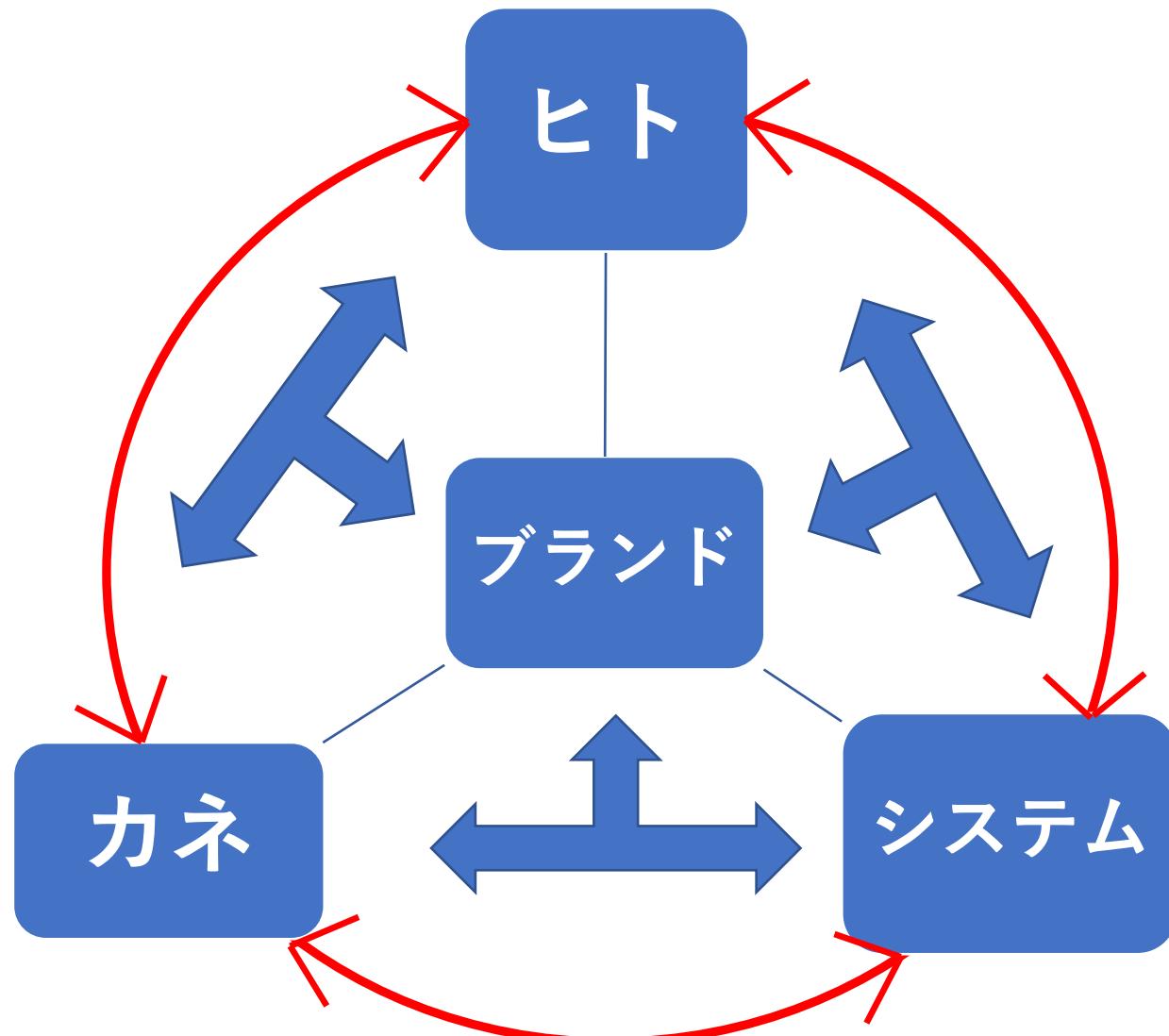
「KKF2030デザイン」リソース		2022年度事業計画 重要課題6項目					
		I.組織風土改善と働き方改革による職場環境改善	II.人材採用・育成の促進	III.リスク管理とバランス体制強化	IV.地域貢献と新規事業探索	V.財務・修繕	VI.情報連携と情報発信
プラン	・基本方針 ・行動基準	○	○	○	○	○	○
ヒト	・人事評価制度再構築 ・組織変遷改進	★	○	○	○	○	○
カネ	・過去の陳述 ・3～5年、10ヶ月事業計画(CFベース)	★			○		
モノ	・大規模修繕計画策定 ・個別修繕計画策定による全管理体制	○			○		
システム	・法人内部システム構築 ・外部システム導入計画	★	○	○	○	○	○
地域/ネットワーク	・地域との共生 ・地域貢献 ・新規事業探索			○			

社会福祉法人 神奈川県医療会



・中計視点の「KKF2030リソース」と「事業計画における重要課題6項目」を振り返り精査して、2023年度は法人本部最重要課題4項目(ブランドを中心にヒト、カネ、システムが相関する構造)に整理し、具体的な取組みを実行し、好循環サイクルを回していく。

2023年度本部最重要課題の構造



7. 2023年度本部最重要課題



【ブランド】

- ・基本理念/パーカスの浸透
- ・KKF2030ビジョンの策定による一体感の醸成
【事業所ビジョン/法人ビジョン】



【ヒト】

- ・ワーキングチーム（職場代表者）を主体とした「人事評価再構築」の推進
- ・本部組織改革相互理解と共有共感



【カネ】

- ・安定性の確保【事業収支改善/事業収支加算改善】
- ・事業収支予算精緻化
- ・未来的価値創造に向けた事業シミュレーション



【システム】

- ・法人基幹システム連携強化
- ・ICTソリューションの実現
- ・法人システム運用ルールの安定化

8. 2023年度本部最重要課題の具体的な取り組み

ブランド	ヒト	カネ	システム
<ul style="list-style-type: none">基本理念、パーソンズの浸透 【組織横断フォーラムの実施】 【個人目標管理シートでの相互確認】KKF2030ビジョン 【事業所ビジョンの策定】 【法人ビジョンの策定】 【ビジョンによるマネジメント】 ※「7つの習慣」、「やる気の正体」	<ul style="list-style-type: none">正しい人事評価 【ワーキングチーム・管理者による人事評価制度再構築】人材研修BANK検討 【ワーキングチーム中心に具体策の策定】多様性のある人材採用 【障害者雇用促進、外国籍雇用検討】本部組織改革 【業務移管整理と事業所支援強化】	<ul style="list-style-type: none">介護事業収益改善策構築中期シミュレーション 【事業別収支予測、人件費、修繕費推移予測】 【新規事業シミュレーション】財務収益構造理解啓蒙月次管理会計構築長期財務計画策定省エネ化推進	<ul style="list-style-type: none">法人基幹システム構築ICT環境整備(情報セキュリティ最優先)情報管理体制強化ネットワーク環境構築システムリプレイス一元管理体制ICTヘルプデスク開設

9. 事業所別計画 – (1)

※詳細別紙

事業所	事業種別	事業計画の概要	職場環境改善	人材採用・育成	ガバナンス	地域貢献・新規事業	財務・修繕	情報連携・発信	収入(単位:百万)	支出(単位:百万)	差引(単位:百万)	備考
1 賽護老人ホーム白寿荘 【定員数70名】	措置事業	・入居者確保 ・人材配置と育成 ・経営効率の向上	・リーダーシップの強化 ・支援員の勤務見直し ・超勤対策	・新人育成と研修計画 ・個人育成計画と目標管理の遂行 ・環境改善とフィードバック	・管理責任と役割の明確化 ・体制整備とリスクマネジメント ・BCP機材の所在把握	・地域貢献事業窓口設置 ・生活支援ショートの開設 ・事業実施マニュアル作成	・満床を目指す ・利用状況把握 ・大規模修繕計画の遂行	・ホームページの有効活用	215	207	8	
2 賽護老人ホーム野庭風の丘 【定員数120名】	措置事業	・法人理念に基づいた人権プライバシー尊重 ・職場ルール再確認、コミュニケーション向上 ・課題認識を通じ、収益維持と地域交流	・業務目標設定、面談実施 ・優先順位を考慮し超勤削減 ・ルール改訂、固定概念の打破	・職員異動による補充、新卒採用 ・業務目標設定、施設外研修の受講 ・自己覚知	・BCP対策及び訓練実施 ・管理制度指示系統の明確化 ・コミュニケーション能力向上	・福祉拠点としての役割を果たす ・地域定例会への積極的参加 ・駄菓子屋カフェ開催(子ども食堂代替)	・満床、待機者確保、ショート受入れ ・情報を通じて収益担保、職員雇用 ・大規模修繕計画10~15年想定	・メール、ラインの活用 ・ブログ更新頻度向上 ・広報誌、チラシ配布	317	302	15	
3 横浜市生活自立支援施設はまかぜ	措置事業	・法人理念に則り人権尊重と権利尊重に努める ・個人情報保護、コンプライアンス遵守リスク管理 ・業務改善と組織構成に取り組む	・担当支援からグレード支援へ移行 ・人員補充、人材確保 ・担当職員による支障向上 ・組織再編成、業務役割の明確化	・人員補充、人材確保 ・担当職員によるOJT ・人材育成と定着化	・情報漏洩対策の徹底 ・個人情報規定内規理解 ・研修実施で理解を深める	・社会資源として探索追及 ・地元企業への出席(発表会議)	・安全性を優先した修繕 ・能力アピールに向けた設備投資 ・経年劣化改修、市町議議	・ICT化システム導入 ・SNS利用 ・情報発信	331	328	3	
4 救護施設浜市浦舟園 【定員数100名】	措置事業	・地域の力を借りて時間負担削減しサービス向上 ・働きやすい職場環境の実現(第三者評価等) ・BCP対策訓練の実施	・浦舟園のビジョン作成中4点に較ぶ ・モチベーション向上、離職率減少 ・コミュニケーション活性、風通し	・目標自己評価シート活用し共有する ・研修計画の立案及び精査 ・OJT委員による新人教育課題解決	・各種BCP訓練の実施 ・2つの事業の体制強化 ・リーダー研修受講	・生活困窮者就労訓練、再開受け入れ ・新規BCP委員立ち上げ ・ボランティア・レク活動の充実	・光熱費高騰、補助金確認 ・加配職員充足、みなし常勤採用 ・通所利用者2名増加予定	・職員Gmail全体情報発信 ・4施設会議、情報共有・組織強化 ・医療会議、施設連携強化	329	324	6	
5 老人福祉センター横浜市緑ほのぼの荘	受託事業	・感染症制限緩和に伴う事業再開 ・フレイル予防のための体操・運動事業の拡充 ・コムシタによる日常業務のPC処理	・職員とコムシタの関係改善 ・PC処理導入により、業務帳票整理	・コムシタ採用時OJT制から2か月試用期間制へ ・コムシタ評価制度導入	・コムシタ短期退職対策 ・勤務シフトの公平性担保 ・情報透明、浸透の徹底	・専門家、専門集団への委託 (内充実)	・計画的予算配分、適時遂行 ・施設保守点検、毎月1回実施	・HP発信からSNS発信へ移行	49,880	49,860	20	*単位千円
6 仕事チャレンジ講座 (生活・社会・技能修得訓練)実施事業	受託事業	・座学、実技のプログラムの充実 ・就労に結びつく技術の習得を目指す ・幅広く周知し就労支援を広める	・個々の力に合わせた講座内容 ・話し合時間も多く持てる ・役割分担と業務分配精査	・講座運営担当の為、人材確保 ・業務条件の見直し ・選任者雇用確保	・個人情報内規見直し ・遵守研修の実施 ・流出防止対策強化	・施設運営プログラム再開貢献 ・講座開催期間外の効果活用 ・短期間集中講座可能性模索	・使用資材の劣化修繕 ・購入修理技術の実施 ・優先順位を決めて計画策定	・事業理解を深める ・講座説明と参加呼びかけ ・広報活動強化	0	0	0	*単位千円
7 寿地区高齢者健維持推進事業 寿でいふれあいの広場	受託事業	・地域高齢者の心身機能維持、進歩、支援 ・介助により防止・生活習慣病予防 ・安心して過ごせる場所の提供	・サポート体制の充実 ・職員個々の負担軽減	・職員の高齢化に伴う採用 ・後任者の人材確保	・事故事案発生時の対応強化 ・個人情報人権擁護研修実施	・高齢者を支える社会資源 ・支援の選択肢の認識拡大化	・開館停止日を少なくする ・利用収入を維持していく	・広報活動法人HPを中心に発信	0	0	0	*単位千円
8 横浜市十日市場地域ケアプラザ	受託・介護保険事業	・コロナ禍で薄れた地域との関り再構築 ・新規事業連携、情報共有を図る ・保険事業の新規開拓・運営の安定化	・働き方改革による健康職場の実現 ・通所介護事業の欠員補充 ・有給休暇取得率向上	・働き方別・職種別相談コミュニケーション形成 ・事業枠を超えて会議相談機会増やす ・ステークホルダー勉強会実施	・継続的なコンプライアンス浸透 ・個人情報保護研修全体実施 ・ハラスメント研修全体実施	・十日市場ヒルタウンLSA事業受託 ・地域課題の状況理解 ・包括支援との連携、解決	・デイサービス事業継続の方策 ・個々の課題に向き合う支援実施 ・職場環境改善、適正人員配置	・ICT運用による地域情報発信 ・SNSを利用した予定案内発信 ・多世代カフェ立ち上げ	160	158	3	
9 横浜市瑞場地域ケアプラザ	受託・介護保険事業	・介護保険事業の収支改善 ・指定管理者の単独収支安定 ・感染症で低下している地域活動の支援強化	・働き方改革、環境整備 ・指定管理者の単独収支安定 ・感染症で低下している地域活動の支援強化	・働き方改革で相談会を開催 ・事業枠を超えて会議相談機会増やす ・ステークホルダー勉強会実施	・通所事業規模に合わせた人員適正化 ・主マネ資格取得推進	・灾害備蓄品の適正活用方法検討 ・訓練の実施	・地域活動支援を行う ・オーランジ事業の推進 ・認知症理解促進	・所内照明LED化推進 ・介護保険事業の収支改善 ・指定管理者の単独収支安定	241	237	4	
10 特別養護老人ホーム白寿荘 【定員数72名】	介護保険事業	・特養三年計画を徹底する ・職員定数、事業推進率、接案入居率上昇 ・大規模修繕を視野にした環境整備	・職員の定着率を上げる ・働きやすさ ・働きがいup	・事業推進力を上げる ・自己評価、幹部教育の徹底 ・差別化できる事業に進化させる	・個人情報漏洩保護委員会設置 ・マニアル再整備 ・ホームページ担当者設置	・TACの両施設間連携強化 ・ホームページ推進メンバー選定 ・地域活性化の強化	・常業販促に対する勉強会設置 ・入浴所販促会の強化 ・稼働率入所率を上げる	・施設利用を高める発信の強化 ・地域活動への積極的参加 ・白寿荘チームへの発信	411	402	8	
11 寿福祉センター保育所 【定員数 60名】	児童福祉事業	・中長期計画を目指し、法人理念理解を深める ・食育の促進、BCP防災意識向上 ・主任リーダーを中心とした連携体制強化	・気持ちよく有休利用できる職場環境 ・職員の連携強化、ビジョンの共有 ・三園連携	・キャリアアップ研修の促進 ・新卒者2名の育成、プリセプター制度 ・新評価制度の作成	・BCP対策強化 ・副主任・常勤リーダー職員配置 ・クラス運営の作成	・地域行事活動、会議への参加 ・かるがも広場・時休保育拡充 ・交流会とのコラボ保育活動	・0,1歳児の定員充足 ・障碍児認定 ・リスク管理	・ブログ毎月更新、地域配布物強化 ・保護者へ事業計画周知 ・配布物イメージアップ	145	138	7	
12 新山下二丁目保育所 【定員数 90名】	児童福祉事業	・子供の主体とする保育推進 ・システム導入による業務効率化 ・物語の生まれる園庭と防犯対策	・職員の精神的負担軽減 ・各役割の定着と業務分担 ・各連携会議強化	・管理職フォリー事務員雇用 ・職員の主体性、育成、看護師定着 ・三園プリセプター制度見直し	・老朽化、危険個所修繕→メンテ契約 ・北方防雪防出張所との毎月連携 ・物語が生まれる園庭計画強化	・老朽化、危険個所修繕 ・時休保育拡充 ・小規模園リサーチ連携園計画模索	・老朽化、危険個所修繕 ・えんぱい導入 ・年度途中入所推進	・保育園ビジョン、事業計画の浸透 ・コードモード機能拡大利用 ・ホームページツールにおける発信	202	198	5	
13 大倉山保育園 【定員数 90名】	児童福祉事業	・組織体制強化【副主任配置】 ・医療的ケア児サポート園・インクルーシブ保育所 ・第三者自己評価から保育の質向上を目指す	・組織内における情報受伝確立 ・自責形成と連携 ・評価表評価制度を進める	・OJT研修とスキルアップ ・内部外部研修の充足 ・医療的ケア学習	・BCP対策及び訓練実施 ・法令遵守意識改革 ・情報共有システム構築	・医療的ケア対応と行政地域協力 ・時休保育強化の受け入れ ・育児相談育児イベントの参加	・職員会議での経営運営共有 ・園舎の修繕計画 ・大規模修繕計画立案	・絵本貸し出し給食食食サンプル再開 ・職員主体で改善案発信 ・受伝達系統の確立と相互理解	236	210	26	
14 収益事業	その他	・昨年9月に横浜駅東口地区更新が行なわれた ・3年ご一回の更新で、從来通りの更新となった ・地代料下落の状況にあって安定的収益担保					・社会情勢動向の精査 ・安定収益化担保の情報収集 ・経営資源のシミュレーション		189	104	85	
15 本部	その他	6つの重要課題とKKF2030リースをクロス 法人存続のための「ブランド」を中心化 【カネ】、【ヒト】、【システム】の大項目4つを フレームワークとして整理し、最優先で取り組む							1	74	▲74	
合計									2,827	2,735	92	

【ブランド】 × 【ヒト】 × 【モノ】 × 【システム】



10. 事業所別計画－（2）事業別ポイント

【保育事業】

- ・3園連携による事務職業務を精査し、標準化したスタートを切る1年。
- ・寿福祉センター保育所では、理念に沿った外国籍児童、障害児を継続して受け入れ「ありのままを受け入れる保育姿勢で利用者も職員も楽しい ダイバシティな保育所に」。新山下二丁目保育所では「四季の物語が生まれる園庭づくりで保育所の未来をなかまと創造する」。大倉山保育園は「インクルーシブ保育と専門性の連携で 人とつながり未来を紡ぐ」。それぞれにビジョンを掲げて、3園連携とともに地域に根差した特長ある園運営を目指していく。

【措置事業】

- ・はまかぜは、ICT化を推進して働き方改革、職場環境改善を進め、組織再編による支援体制の充実を目指す。
- ・養護事業では、経営上の満床維持を目指し、新たな養護ビジョンに基づき一体感をもった組織運営を行う。
- ・救護施設浦舟園は「その人らしさを認め合い、語りあえる環境を意識し、笑顔あふれる浦舟園を創る」をビジョンに掲げ、新施設長がリーダーシップを発揮していく。

【介護保険事業】

- ・ケアプラザのデイサービス事業は、加算獲得、適正な人員配置によりコロナ禍で薄れた地域との関係性を深め、ケアプラ全体での収支黒字化を目指す。
- ・特養白寿荘では、ウィズコロナでの入所、利用率の向上を担保する一方で、大規模修繕についても計画的に取り組む。



11. 資金収支予算

＜直近の状況と2023年度予算について＞

- ・2022年度は収益事業を含んで69百万円の黒字確保だが、実質、社会福祉事業では▲17百万円の赤字となつた。
- ・コロナ禍による介護保険事業の利用控えが顕著となる一方、措置事業における人材確保難及び光熱費の高騰は、全部門を席巻し収支を圧迫した。これまでけん引してきた措置事業、保育事業でも収支増が鈍化した。
- ・2023年度、介護保険事業では、3部門(特養白寿荘、踊場地域ケアプラザ、十日市場地域ケアプラザ)がこれまでの事業内容をそれぞれに精査し、本部と協働しながら黒字化シナリオのPDCAを回していく。
- ・保育事業では大倉山保育園での医療的ケア児対応含め、3園連携を図りながら、選ばれる園として生き残りをかけていく。
- ・また、各施設運営面では、ビジョンを掲げ事業計画の柱となる6つの重要課題の解決に向けて、リーダーメンバーがそれぞれの役割を全うしていく。

資金収支予算 (CF)

社会福祉・収益事業

(百万円)

項目	2023年度 年初予算	2022年度 決算見込み	2022年度 当初予算
事業活動収入	2,827	2,742	2,781
事業活動支出	2,735	2,673	2,663
事業活動収支	92	69	118

* 収益事業を含む。



■資料：事業活動資金収支(CF) 推移表

◆事業活動資金収支(C/F) 推移表							2023.3.22 (単位：百万円)	
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 見込み	前年増減 2022年-2021年	2023年度予算
はまかぜ	事業活動収入	320	315	302	298	282	▲ 15	331
	事業活動支出	321	313	298	291	275	▲ 16	328
	事業活動資金収支差額	▲ 0	2	5	7	7	0	3
寿	事業活動収入	136	149	159	165	146	▲ 19	145
	事業活動支出	121	135	131	139	132	▲ 7	138
	事業活動資金収支差額	15	14	28	26	14	▲ 13	7
新山下	事業活動収入	172	185	190	188	215	26	202
	事業活動支出	161	170	166	179	193	14	198
	事業活動資金収支差額	10	15	24	10	22	12	5
大倉山	事業活動収入	183	187	189	204	220	15	236
	事業活動支出	167	177	179	191	203	12	210
	事業活動資金収支差額	15	10	10	13	16	3	26
養護白寿	事業活動収入	216	224	221	218	220	1	215
	事業活動支出	171	186	186	194	212	18	207
	事業活動資金収支差額	46	38	35	24	7	▲ 17	8
野庭風の丘	事業活動収入	309	318	322	316	321	5	317
	事業活動支出	270	280	277	280	298	18	302
	事業活動資金収支差額	39	38	45	37	24	▲ 13	15
特養白寿	事業活動収入	380	399	399	398	389	▲ 9	411
	事業活動支出	398	399	406	406	402	▲ 4	404
	事業活動資金収支差額	▲ 18	0	▲ 7	▲ 8	▲ 13	▲ 5	7
十日市場	事業活動収入	163	161	157	144	153	8	160
	事業活動支出	168	166	155	152	156	4	158
	事業活動資金収支差額	▲ 4	▲ 5	2	▲ 7	▲ 4	4	3
ほのぼの	事業活動収入	47	48	48	50	50	▲ 0	50
	事業活動支出	46	48	48	50	51	1	50
	事業活動資金収支差額	1	1	0	▲ 0	▲ 1	▲ 1	0
踊場	事業活動収入	241	242	229	215	226	11	241
	事業活動支出	233	235	238	229	231	2	236
	事業活動資金収支差額	7	7	▲ 9	▲ 14	▲ 5	9	5
浦舟園	事業活動収入	318	329	321	326	331	5	329
	事業活動支出	291	297	290	302	320	18	324
	事業活動資金収支差額	27	32	31	24	11	▲ 13	6
11事業所合計	事業活動収入	2,484	2,558	2,538	2,524	2,550	27	2,637
	事業活動支出	2,346	2,405	2,373	2,412	2,474	61	2,554
	事業活動資金収支差額	137	152	165	111	77	▲ 35	83
本部(職員貸付金・建設会計除く)	事業活動収入	5	32	6	3	2	▲ 0	1
	事業活動支出	73	84	61	62	96	34	74
	事業活動資金収支差額	▲ 68	▲ 52	▲ 54	▲ 60	▲ 94	▲ 34	▲ 74
社会福祉事業計	事業活動収入	2,489	2,590	2,544	2,526	2,553	27	2,638
	事業活動支出	2,420	2,489	2,433	2,474	2,70	95	2,620
	事業活動資金収支差額	69	101	111	52	▲ 17	▲ 69	8
収益事業	事業活動収入	181	186	185	185	183	4	185
	事業活動支出	93	96	92	94	103	9	105
	事業活動資金収支差額	88	90	93	92	86	▲ 6	84
合計	事業活動収入	2,670	2,776	2,729	2,711	2,742	31	2,827
	事業活動支出	2,512	2,585	2,525	2,568	2,610	105	2,620
	事業活動資金収支差額	157	190	204	143	69	▲ 74	92
保育事業計	事業活動資金収支差額	41	40	63	49	52	3	37
措置事業計(はまかぜ・養護・浦舟園)	事業活動資金収支差額	112	107	111	84	42	▲ 43	32
介護保険事業(特養・踊場/十日市場)	事業活動資金収支差額	▲ 15	3	▲ 13	▲ 29	▲ 22	9	15
社会福祉事業(ほのぼの)	事業活動資金収支差額	1	1	0	▲ 0	▲ 1	▲ 1	0



■資料：事業活動資金収支(CF) グラフ

